

総合研究棟Ⅷ-1(改修)

建物概要

建築面積	647㎡
延床面積	1,531㎡
構造・階数	鉄筋コンクリート造 3階建
工期	平成25年10月～平成26年3月



施設整備のねらい

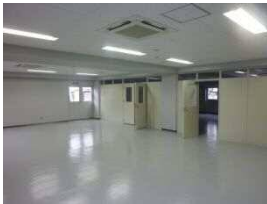
学内の計測・分析機器を集約して、複合利用の高度化や効率化を可能にし、学内外の研究者が試料作りからデータ解析まで行える環境を備えた実践場（オープンR&Dファシリティ）を整備する。

この場を、コンサルティングや企業課題解決の現場とするとともに、博士後期課程学生とポスドク研究員、若手企業人の実践教育の現場として、広い視野を持ち、産業現場の研究開発をリードできる高度専門スキルを有する産業人材の養成の場とする。

本学が目指す、地域と大学の組織的な連携強化策「COC構想」を支える施設である。

施設の案内 1階

【分子構造解析 表面分析・物性測定室】

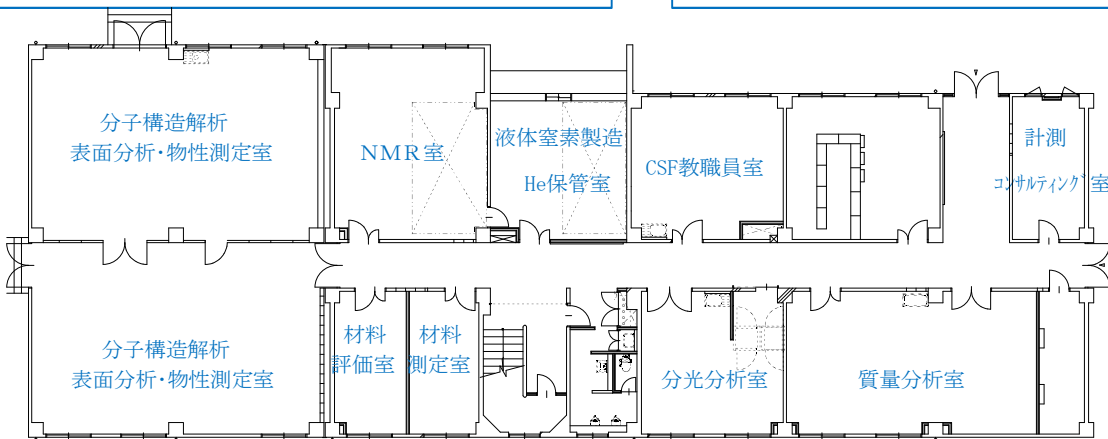


既存間仕切りを撤去してできるだけ大部屋としています。
多種多様な実験装置を配置することができ大型プロジェクト等にも容易に対応できるようになりました。

【NMR室】



DNA構造解析などの先端研究に欠かせない高性能NMR（核磁気共鳴）装置と超伝導マグネット装置を設置する実験室。超伝導マグネットへ供給する液体ヘリウムの回収設備を備えています。



1階 平面図

【(全体)2重サッシ設置】



内窓樹脂サッシ

工期短縮と断熱性を確保し省エネ効果を上げるため、既設窓サッシは残し、内側に樹脂サッシを設置しました。省エネだけでなく防音効果も期待できます。

【分光分析室】



超精密実験装置である分光分析計を設置するため、クラス10000のクリーンルームとしています。

施設の案内 2階

【イノベーションプロジェクト室22】

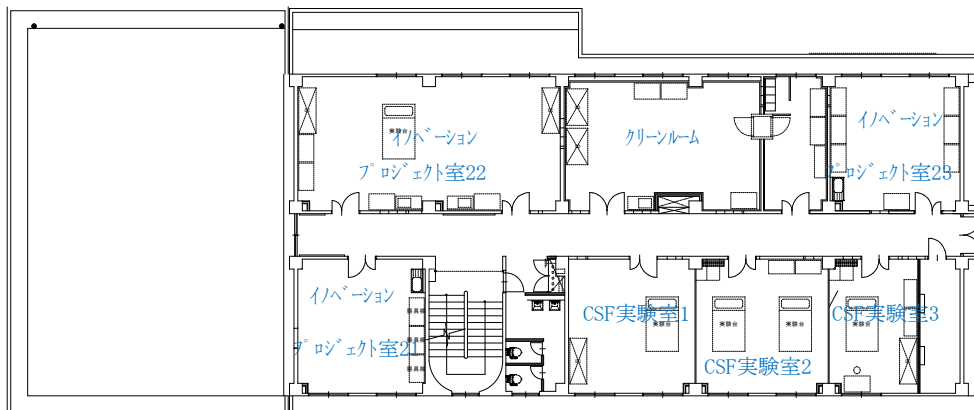


外部資金やCOC関係の共同研究に活用するため、2階、3階に大小併せて6室のプロジェクト室を設けています。

【クリーンルーム】

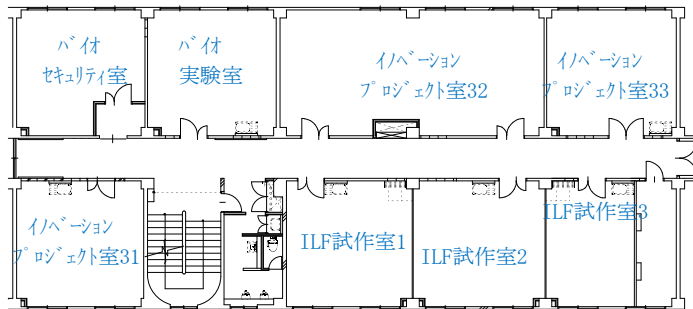


クラス10000のクリーンルームです。共同研究時に必要な実験設備で高度のクリーン度が要求されることを考慮して設置しました。



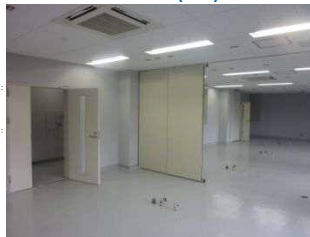
2階 平面図

施設の案内 3階



3階 平面図

【CSF実験室(2F)・ILF試作室(3F)】



CSF実験室とILF試作室は、3スパンの大きな実験室ですが、移動間仕切りを設けてあるため、1スパン毎に分けて使用することも可能です。部屋使用のフレキシビリティを確保しています。

【改修前はこんな建物でした】



外壁・庇のコンクリートが剥離し鉄筋がむき出しとなって、危険な状況でした。
補修し安全な状態に改修しました



薄暗い陰気な雰囲気のある廊下。建物全体が暗かった。床・壁・天井の内装改修により明るく快適な空間になりました。



暗い・汚い・狭い実験室。床・壁・天井の内装改修できるだけ間仕切りを少なくし快適な大空間となりました。

